

令和7年度第1回学校運営協議会議事録

さいたま市立慈恩寺小学校

- 1 日時・場所 令和7年6月12日(木) 10:30~12:30 Sola るーむ
- 2 出席者(省略)
- 3 次第
 - (1) 校長あいさつ(校長)
 - (2) いじめ防止対策委員会(生徒指導主任)
 - ・いじめ案件
 - ・児童の様子
 - (3) 校内授業参観
 - (4) 自己紹介
 - (5) 会長・副会長選出
 - (6) 開会の言葉(会長)
 - (7) 学校経営方針等説明
 - (8) 協議・熟議
 - (9) 事務連絡等
 - (10) 閉会の言葉(会長)
 - (11) 児童との給食会食
 - (12) 児童会主催によるクイズ大会

第1回学校運営協議会 要約資料

1. 現状と課題認識

今年度の教育活動において、子どもたちの自己肯定感の向上が重要な課題として挙げられています。挨拶などの基本的な生活習慣は定着している一方で、「自分で判断する力」や「自信を持って行動する力」が十分に育っていない様子が見られます。授業中の些細な判断に対しても不安を感じている子どもが多く、これは教育現場の接し方や授業の在り方にも改善の余地があると考えられています。

2. 今年度の教育方針

昨年度に引き続き、「本物に触れる体験」を通じて子どもたちに自信をつけさせることを重視します。また、主体性の育成も重要なテーマであり、市からの提案として以下の3つの視点が示されています：

- ・学校で学んだことを活かす場を提供する
- ・他者と協働する経験を積む
- ・自分の生活や社会を変えられるという実感を持たせる

3. 子どもたちの活動と提案

今年度は、前期代表委員の子どもたちが中心となり、全校クイズ大会を企画・実施するなど、主体的な活動が始まっています。後期には代表委員が交代し、11月と2月に熟議の場を設け、子どもたち自身がやりたいことを提案し、それを大人が支援する形で実現していくことを目指します。

4. 地域との連携と子どもたちの体験活動

地域行事（夏祭り、避難所訓練など）への参加を通じて、子どもたちが社会と関わる機会を増やすことが期待されています。中学生のボランティア活動も、小学生にとって良い刺激となっており、今後は小学校高学年からの参加も検討されています。地域ではすでに多くの活動が行われており、子どもたちがそれに関わることは貴重な経験になるとの意見が多く出されました。特に、畑や自然体験を通じて子どもたちが「本物に触れる」ことの重要性が強調されました。

（1） 地域活動の具体例と提案

地域では以下のような活動が行われております。

- ・ じゃがいも掘り体験や花火大会、クリスマス会などの季節行事
- ・ 敬老会への参加（歌や手紙の贈呈など）
- ・ 地域の掲示板に子どもたちの作品を展示
- ・ 中学生による小学生のサポート活動
- ・ 防犯ボランティアとの交流イベント

5. 子どもたちの主体性と参画意識の育成

子どもたちが自ら「やりたい」と声を上げることが少なく、指示を待つ傾向が強いという課題が共有されました。そのため、子どもたちの声を引き出す工夫や、失敗を恐れずに挑戦できる環境づくりが必要とされています。

6. 安全面と実施上の課題

活動を進める上で、安全管理や保護者の協力体制も重要な課題として挙げられました。そのため、無理のない範囲で、小さな成功体験を積み重ねる形での活動が望ましいとされました。

7. 今後の展望

今後は、子どもたちの「やりたいこと」を聞き取り、それに対して地域や学校がどう支援できるかを考える姿勢が求められています。学校と地域が一体となって子どもたちの成長を支える体制づくりが進められています。今年度は、子どもたちが「失敗してもいいから挑戦する」ことを大切にし、経験を積ませることを重視します。11月の熟議では、子どもたちの提案を紹介し、地域やPTAなどの大人の視点から支援の方法を検討する予定です。